

ヘルペスウイルス感染による片側性鼻中隔炎症例

原 敏 浩 中 丸 裕 爾 福 田 諭

北海道大学病院耳鼻咽喉科

片側の鼻中隔粘膜の腫脹が遷延し、病理組織検査にてヘルペスウイルスの感染が証明された症例を経験したので報告する。患者は26歳女性。左鼻腔の疼痛を主訴に近医を受診した際に左鼻中隔粘膜の腫脹と痂皮の付着がみられた。細菌性鼻中隔炎を疑われて治療されたものの、症状の改善がないために当科を紹介された。当科初診時、左鼻中隔はびまん性に腫脹し、圧痛があり、痂皮の付着をみとめた。同時に左上頸部のリンパ節腫脹がみられた。このとき右鼻腔には異常をみとめず、無症状であった。また発熱もなく、口腔咽頭領域にも異常をみとめなかった。その後、初診時の症状が改善しないため、診断確定を目的に鼻中隔粘膜の生検を行った。病理組織検査では、線維組織の増生と炎症細胞浸潤のほか、上皮細胞の核が腫大し、核内封入体をもとめ、単純ヘルペスウイルス（HSV）染色陽性であった。以上より、ヘルペス性鼻中隔炎と診断した。その後、症状が改善していく過程で、鼻尖部皮膚や口唇周囲にヘルペス疹をみとめた。単純ヘルペスウイルス再活性化による炎症は口腔内、口唇、皮膚で頻度が高いが、鼻中隔粘膜に及ぶことは稀である。われわれが検索した限りでは、これまでヒトにおいて鼻粘膜でのウイルスの存在を直接証明した報告はなく、文献的考察を加えて報告する。